第三講〈論説〉記述型　言語論・日本語論・社会言語学

次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

最近、若い人たちの間でさかんに使われている言葉の一つに「やばい」があります。若い人どうしの会話を聞いていると、「やばい！　やばい！」と連呼したり、「それってやばいよね～」とか、「それってやばくね？（平板調）」と相づち表現などに使われたりしています。もはや「やばい」を抜きに彼らの会話は成り立たないのではないかと思うくらいに「やばい」は若い年代の人たちの間で実に良く使われています。

しかし、私のような年代の人間の感覚では、若い人たちの「やばい」の使い方には二つの点で非常に違和感があります。一点目はそもそも「やばい」という言葉を会話でやたらに使いすぎること、二点目は「やばい」を「危険だ」という本来の意味以外に、①「ほめことば」やプラス評価を表す言葉として使っている点です。

平成一五年（二〇〇三年）、ＮＨＫの有名な女性アナウンサーが、ニュース番組のスポーツコーナーで、あるプロ野球の監督にインタビューをしているときに、「やばい」という言葉を口にしたところ、放送後に多くの批判がＮＨＫに寄せられたということがあります。ＮＨＫ側には、そのときには「やばい」の使用について実験的な意図があったようなのですが、少なくとも公共（公共放送）の場で「やばい」を使用することを社会が許容する状況にはまだなっていないようです。

そもそも、「やばい」とはどのような言葉なのでしょうか。「やばい」はもともと「隠語」でした。隠語とは「位相語」の一種です。

言葉の話し手・聞き手の違いや、場面の違いなどによって、言語表現が異なった姿をとりますが、このことを「言語の位相」といいます。位相の違いによって現れる語彙のことを「位相語」といいます。例を挙げれば、男女の性差による言葉の違い（「男ことば」「女ことば」）や、年齢差による言葉（「幼児語」など）などが位相語です。

職業の違いや社会的階級の差によって形成される位相語が「職業語」や「集団語」です。集団語は、その集団に属する人たちが集団で共有する秘密や仲間どうしの秘密を守るために、また仲間どうしの意思疎通を秘密裏に簡便に行うためのもので、その

集団独特の語彙すなわち「隠語」を形成していきます。

『隠語辞典』（楳垣実編、昭和三一年・一九五六年）によると、「やばい」は形容詞として「①危ない。危険な。②発覚のおそれがある。③逮捕されそうな。④おそろしい。⑤耐えがたい。⑥苦しい。⑦不可能な。」の意味があり、形容詞が名詞化した例として「①看守の巡視。②刑事。巡査。看守。」という意味が挙げられています。

『隠語大辞典』（木村義之・小出美河子編、平成一二年・二〇〇〇年）には、「やば」とは「刑事・巡査・探偵・看守」のこととあります。つまり、窃盗・強盗・賭博などの犯罪者たちの立場から見て警察官や看守に踏み込まれるような危険な状況が「やばい」のです。「やばい」という言葉は、元は犯罪者の集団の中で使われていた隠語なのです。

川端康成の小説『浅草紅団』（昭和五年・一九三〇年）は、大正から昭和にかけて浅草レビュー周辺で蠢動（しゅんどう）していた不良少年・不良少女（というよりも犯罪少年少女・虞犯（ぐはん）少年少女）の組織の生態を彼らの特徴ある言葉遣いとともに活写した異色の傑作ですが、この小説の中に「やばい」の使用例があります。

「この間お糸に紹介してくれたのはいいが、『私と歩くのはヤバイ（危い）からお止しなさい』っていふんだ。」

「ほんたうにお止しなさいまし。紅団とはわけがちがつてよ。昔はね、お糸が公園を洗髪で歩くと、血の雨が降るつていつたものよ。…」

〈赤帯会・四一〉

『浅草紅団』では、昭和五年当時の一般の読者のために、不良グループの使う隠語には（　）内にその意味を示しています。「ヤバイ（危い）」と同様に『浅草紅団』の文中で（　）付きで扱われている隠語をいくつか挙げてみましょう。これらの隠語と並べてみると、「やばい」という隠語が当時の一般社会ではどのように受け止められていたかが分かります。

「エンコ（公園）」・「ドヤ（木賃宿）」・「オカン（露宿・露宿者）」・「ハクイ（美しい）」・「ナゴコマシ（色魔）」・「ヤリカン（十銭）」・「ビタニノル（旅に出る）」・「ベシャル（しゃべる）」・「スメ（娘）」・「コマス（たぶらかす）」

仲間うちだけで使われていた隠語が、やがてその集団から外部に広まり、一般化していく例はたくさんあります。刑事（私服警官）のことを「デカ」というのは現在では広く知られたことですが、元は明治時代の刑事が「角袖（かくそで）」を着ていたことから、刑事を「デカ」と呼ぶ犯罪者集団内の隠語でした。取り締まる側の警察集団も捜査活動の関係上、犯罪者集団の隠語を自然に共有することになります。

かつては犯罪者集団の隠語であった「やばい」という言葉を現在の若い人たちが日常的に使っているというのは「知らぬが仏」のようなものです。

さて、「やばい」はその後、隠語から使用域を拡大させて一般に使われるようにもなったわけですが、それでも「危ない・危険だ」という本来の意味で使われていました。しかし、最近では若い世代の間では「ほめことば」やプラス評価を表すときにも使われています。この傾向が顕著になったのは、元号が平成になってからのような気がしますが、どうでしょうか。

「危ない」を意味する隠語「やばい」が、一般に使われるようになってから、マイナス評価での「程度の甚だしさ」の意味も表すようになり、若者の間では急速にプラス評価の「程度の甚だしさ」に意味の範囲を拡大させていきました。つまり「やばいくらい（自分が危険だと感じるくらい）良い・すばらしい」という連想です。②「若者言葉」は誇張した表現や程度の甚だしさを表す表現を好みますので、危ない「やばい」に飛びついたのでしょう。

古典語に「ゆゆし」という形容詞がありますが、その語源は宗教的な禁忌（タブー）の意味を表す「斎」です。「ゆゆし」は神聖なものに触れてはならないという禁忌の「斎」が形容詞化して「畏れ多い、忌みはばかられる、忌まわしい、不吉だ」という意味を表していましたが、次第に程度の甚だしさも表すようになり「たいそうである」という意味を併せもつようになりました。

源氏の君いといたううちなやみて、岩に寄りゐたまへるは、たぐひなくゆゆしき御ありさまにて、何事にも目移るまじかりけり。

（源氏の君がたいそうひどくご病気でお苦しみになって岩に寄りかかって座っていらっしゃるご様子は、このうえなく不吉な

くらいすばらしいご様子であって、何事にも目移りするはずがないのだった）

『源氏物語』「若紫」

中世以降、形容詞「ゆゆし」は「すばらしい、りっぱだ」というプラス評価をも表す形容詞になりましたが、やはり「恐ろしいほどにすばらしい」という語源に関わる微妙なニュアンスは残しています。

形容詞③「いみじ」も動詞「忌む」と関わりのある語で、「ゆゆし」と同様に「不吉なほどはなはだしい、ひどい、恐ろしい」という意味から程度の甚だしさを表すようになり、「すぐれている、すばらしい、りっぱだ」という「ほめことば」に転じました。しかし、やはり語源意識は残っていて、そこには「恐ろしいほどに〜」という畏怖の意味があります。「いみじき人なり」とは「恐ろしいほどにすぐれた人である」という称賛と畏怖とを併せもった人物評価となります。

④古典語の「ゆゆし・いみじ」などは「やばい」と似たような経緯をたどって「ほめことば」に変化していきましたが、犯罪者の隠語「やばい」と「ゆゆし・いみじ」とでは語源としての品格においては比較の対象にもなりません。

（浅川哲也『知らなかった！　日本語の歴史』に基づく）

問１　本文中の傍線部①に「『ほめことば』やプラス評価を表す」とあるが、その意味内容を述べている部分を本文中からさがし、その部分を三十字以内（記号や句読点も字数に含む）でそのまま抜き出して、解答欄に書き入れなさい。

問２　本文中の傍線部②に「『若者言葉』」とある。「若者言葉」と同列に並べられるような「位相」の違いによる「位相語」の名称を本文中からさがし、その語をそのまま抜き出して、解答欄に書き入れなさい。

問３　本文中の傍線部③に「『いみじ』も」とある。なぜ、「〜も」と表現されているのか。本文の趣旨にしたがって、説明しなさい。

問4　本文中の傍線部④に「古典語の『ゆゆし・いみじ』などは『やばい』と似たような経緯をたどって『ほめことば』に変化していきました」とある。両者に共通した変化の経緯を説明しなさい。

問5　本文中で使われている用語「隠語」とは、どういうものか。「位相語」、「集団語」との関係がわかるように、本文の趣旨にしたがって説明しなさい。

第三講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　浅川哲也＝あさかわ　てつや（一九六四〜）國學院大學大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。首都大学東京人文社会学部教授

●川端康成＝かわばた　やすなり（一八九九〜一九七二）大阪府生まれ。東京帝国大学国文学科卒。一九六八年、ノーベル文学賞受賞。代表作、『伊豆の踊子』『浅草紅団（あさくさくれないだん）』『雪国』

語句

平板＝へいばん↓単調で抑揚がない

秘密裏＝ひみつり↓この「裏」は「内」や「まま」のことで、秘密の内に、秘密のままでという意味。秘密裡（り）とも書く

賭博＝とばく↓金品をかけて勝負を競う遊戯。ばくち

虞犯少年＝ぐはんしょうねん↓正当な保護者による監督下になく、将来犯罪にいたりそうな未成年者

知らぬが仏＝しらぬがほとけ↓事実を知ればイライラするが、知らないからニコニコ仏さまのような顔をしていられる

畏怖＝いふ↓おそれ敬うこと

復習問題　第三講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

(ア) 相手の名前を連コする　①弧　②雇　③顧　④孤　⑤呼

(イ) 肩に軽い違ワ感をおぼえる　①輪　②環　③我　④和　⑤倭

(ウ) 超越神に対するイ怖の感情　①緯　②畏　③威　④違　⑤異

(エ) 後半に調子が平バンになる　①板　②伴　③版　④盤　⑤晩

(オ) 事件の収拾を秘密リに行う　①利　②理　③離　④里　⑤裡

(カ) 映画のカン督に抜擢される　①鑑　②冠　③監　④観　⑤館

(キ) 公共放送として許ヨウできない　①庸　②要　③養　④容　⑤溶

(ク) 組織内でイン語が使われる　①隠　②陰　③韻　④姻　⑤員

(ケ) 的確な意思のソ通を図る　①租　②疎　③訴　④素　⑤措

(コ) 煩雑な手続きをカン便にする　①管　②簡　③勧　④敢　⑤間

第三講　模範解答

問1　やばいくらい（自分が危険だと感じるくらい）良い・すばらしい（二十九字）

問2　職業語

問3　「ゆゆし」と同様に本来「恐ろしい」などマイナス評価の意味であったものが「すばらしい」などプラス評価に転じつつも、語源意識は残っているから。

問4　本来は危険や不吉さを意味していたものが、程度の甚だしさを表すようになり、さらにプラス評価にまで意味が拡張されたという経緯。

問5　話し手や聴き手や場所によって異なる言語表現である位相語の一種で、集団語と同様に仲間の秘密を守り、また仲間の意思疎通を秘密裡に行うためのもの。

復習問題　第三講　模範解答

（ア）⑤　（イ）④　（ウ）②　（エ）①　（オ）⑤
（カ）③　（キ）④　（ク）①　（ケ）②　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）連呼　（イ）違和感　（ウ）畏怖　（エ）平板　（オ）秘密裡
（カ）監督　（キ）許容　（ク）隠語　（ケ）疎通　（コ）簡便